

クリスマスの季節がいよいよやってきました。今年は、どんな喜びが私たちに与えられるでしょうか。恵みと憐れみを豊かに注いでくださる主に期待します。

平凡な人生？

人は生まれた時から心臓が動き、笑い、食べて、寝ます。波瀾万丈な人生を送る人もいれば、平凡な人生を送る人もいます。誰一人として、同じ人生を歩む人はいません。時には泣き崩れ、落ち込み、病み、やがて別れを迎えます。その中で、一つの大きな喜びは何かといえば、将来を託す存在を見出すことでは無いか、今朝のザカリアを見つめて示されました。自らの信じる大切なものを、受け継がせることができることは、自らの限界を覚悟した後も、殊更に大きな希望と励ましとなります。

ザカリアは、自らの人生の終焉に、天使ガブリエルから、新しい命がその家庭に与えられることを告げられました。彼にとって、人生に一度あるか無いかの幸運は、神殿で香を焚くクジが当たったことだと思っていました。でも、それは違ったのです。約束とおりに実現した神様の救いは、ザカリアにとって、それは息の止まるほどの奇跡でした。私たちの人生にも、フェルマータがあります。でも、その時に、神様は親しく臨んでくださるのです。そして、思いを遥かに超える道が開かれることを、その人の心に悟らせてくださるのです。私にとっての2021年のクリスマスのように…。

約束は実現する

神様の約束は実現します。でもそれは、私たちの願望が100%通る、という意味ではありません。そうではなく神様のご計画は、破綻しない、という意味です。聖書の中に「千年は主の目には一日のよう、一日は千年のよう」と書かれています。マク口とミク口の世界、その中に自分自身が生きているということに視点を向けることができます。そして、今朝のみことばが私たちに告げる素晴らしいメッセージは、そんなちっぽけな存在であるにもかかわらず、神様が私たちにも、約束を実現させてくださる、ということなのです。神様の約束は、曙の光と平和の道です。

ザカリアには、後にバプテスマのヨハネと呼ばれる男の子が与えられました。老境に差し掛かった夫婦に、どれほどの喜びであったかは、想像に難くありません。そして、その周りの人々にとっても、大きな慰めとなりました。妻のエリサベトには、今時の言葉でいう「ゼット世代」を励まし、唯一無二の信仰の友となる大切な役割も、神様から与えられました。きっと主の母マリアは、生涯、自分をエリサベトの娘だと誇りを持って人に言ったことでしょう。キャンプの子どもたちの顔が浮かびます。

神様の約束なんて、この世界にあるのでしょうか。救いが訪れる日は来るのでしょうか。それを信じて決心した時が、その人のクリスチャンとなった瞬間なのです。